

# 秘書学論集

昭和59年4月

## 目次

## 〈論文〉

「秘書学」研究に関する一考察——「秘書学」成立の基本課題——	浅川 修二	2
バイリンガル・セクレタリー試論	田中 篤子	13
「経営組織と秘書機能」	森戸 政信	23
医療秘書機能論序説	林 雄太郎	33
秘書としての適性把握に関する基礎的研究(1)	白川, 阿久津, 乳井, 丹治	47
秘書の実態II—職能—その2—他部門	島本 みどり	57
徳川幕府職制における「秘書」	阿久津 昭夫	82
「秘書」生成考(その1)	廣田 傳一郎	97
律令国家成立過程における秘書的機関の発生	荊木 美行	105
「文書・資料管理」指導上の問題点	福永 弘之	113

## 〈報告〉

秘書理論研究の現状と課題 その1—論文について	尾崎 和子	123
日本語ワードプロセッサ演習の実際—マニュアル化と演習課題例—	杉浦 允	134
秘書教育の中へ教育ゲーム導入の効果について	佐野 四郎	146
地方短期大学における秘書教育の実践にあたって	藤田 利久	158
イギリスの秘書教育概要 その1	植竹 由美子	170

No. 2, 1984

日本秘書学会

## 編集後記

「秘書学論集」第2号をおくる。応募論文23点、うち採択15点。第1号について、多くの貴重な批判や激励を頂いた。秘書学が認知を得るためには、論集の質、量ともの充実こそ不可欠の前提であろう。さらに多数の応募をみたことは、同慶の至りである。

論文審査も、号を重ねるにつれて、シビアにならざるを得ない。編集委員会も、第1号に比して、必ずしも淡々と進行したとはいえ。研究テーマが秘書学また秘書教育の論文としてふさわしくないもの、オリジナリティーに欠けるもの、また、形式、記述の不適当なもの等をも散見された。秘書学や秘書教育が、学際的性格を免かれ得ない以上、関連諸学、諸分野の援用は当然としても、生硬なままの引用は、かえって秘書学確立への妨げともなりかねない。

第2号も、諸賢の十分なる満足を得るものとはいい難いであろう。しかし、秘書学へのひたむきな熱意と息吹を感じ取って頂ければ幸いである。歩一步の確かな歩みこそ、秘書学確立への道程であろう。

第1号同様、今回も、審査委員、編集委員の諸先生方、また事務局の方々に、一方ならぬご苦勞を願った。ここに深く感謝する次第である。  
(井下)

■編集委員 井下謙次郎(委員長) 奥喜久男 福田節生 福永弘之 元吉昭一 吉田寛治

秘 書 学 論 集

No.2 1984

昭和59年4月25日 発行

発行 日本秘書学会 編集委員会  
〒158 東京都世田谷区等々力6-39-15  
産業能率短期大学 教務部内  
TEL 東京(03)704-1111(代)

制作 ㈱金精社  
TEL 03-994-5801(代)